岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　主要地方道　西城比和線　地質調査業務委託（道路改良・単独）

事業・工事名

調査目的及び調査対象　道路　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.No.17	調査位置	広島県庄原市比和町三河内	北　緯	34°58’08.8153″
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所	調査期間	令和5年 8月 8日～ 令和5年 8月18日	東　経	133°02’28.7081″
調査業者名		主任技師		現場代理人 / コア鑑定者 / ボーリング責任者	
孔口標高	ＴＰ 646.66m	角度	180° 上 下 90° 0° 0°	方向	0°北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	18.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 TOHO D-05 / エンジン ヤンマーディゼルNFD-11EK / ポンプ 丸山 MS-330

標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	記事
646.26	0.40		表土	黒							草根を含む表土。
644.96	1.70		礫混り砂質土	茶褐							細粒分を多く含む。砂は極細粒～粗粒砂。φ1.5cm程度の礫を含む。
			風化ひん岩	淡褐	w5	h2	E	Ⅵ	d	D	強風化したひん岩。わずかに組織が確認される。
				淡褐～灰	w4		D	Ⅴ	c	D	強風化した砂礫状のひん岩。指圧にて崩れる。一部硬質な凝灰岩礫を含む。全体的に黒色細脈を挟む。GL-6.40m付近、粘土化し、軟質である。GL-6.55m付近、約2mm幅の黒色脈が発達する。GL-8.30m付近、45°の傾斜で変質細脈が分布する。GL-8.50～9.00m間、黄褐色の変質岩塊部となる。GL-8.50m付近、一部粘土化し、軟質である。
				褐～暗青灰～暗灰						D	礫状～岩片状の風化したひん岩。一部硬質な凝灰岩礫を含む 風化により、部分的に土砂状となる。GL-13.00～13.20m,13.80～14.20m間、一部土砂を挟む礫状コアだが、全体的によく締まっている。
628.66	18.00			褐～暗青灰			C	Ⅳ		D	岩片状～短柱状のひん岩。一部土砂化するが、締まっている。GL-16.50～17.00m間、灰褐色の変質したコアとなる。

コア採取率（%）・最大コア長 cm・RQD［%］：各1m区間 0［ 0］(100)（0～18m）

孔内水位／測定月日：8/8 0.90、8/9 2.50、8/17 3.80・8/18 3.90、8/17 5.40・8/18 5.60・8/10 5.80、8/10 8.00

標準貫入試験：N値 33、深度 0.00～0.20、打撃ごとの貫入量 33/200

削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
8/8	117, 135, 120, 90, 86	86/ケーシング	S/MC	0.0	120	0.0	W1/0	0
8/9	90, 180, 80, 165, 111, 100		HW/MC			0.2	W3/2	2
8/10	60, 94, 53		HW/DB	1.0	120	0.1	W3/5	5
8/17	27							
8/18	92, 40							